

環境 生物多様性の保全

井関グループの企業活動や農業機械・サービスをご利用いただく農業は、生態系サービスの恩恵によって成り立っています。

[井関グループの生物多様性ガイドライン]

〈基本的な考え方〉

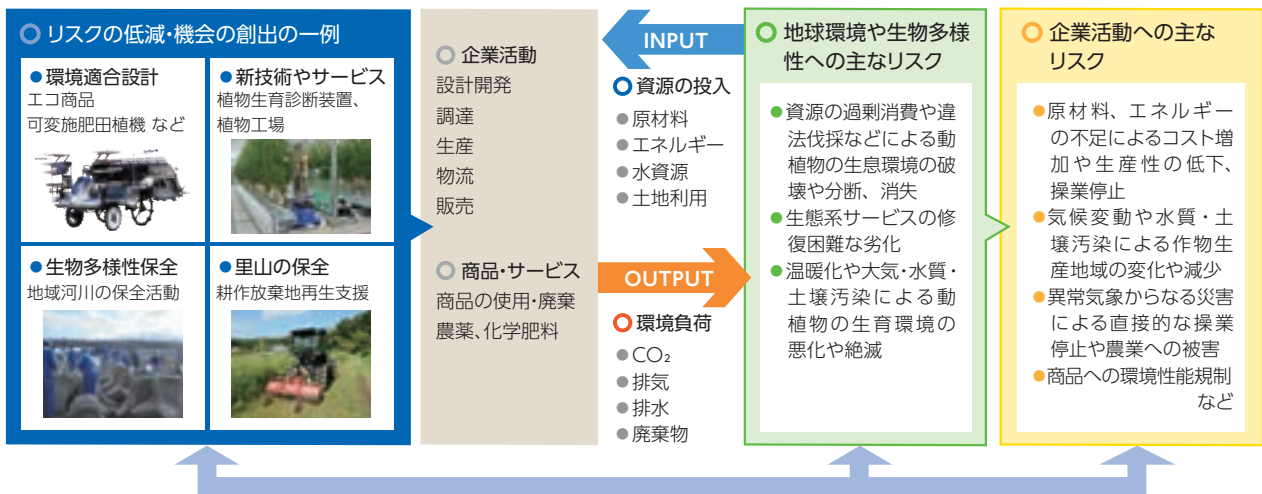
井関グループは、生物多様性が生み出す自然の恵み（生態系サービス）の恩恵を受けていることを認識するとともに、生物多様性保全への取り組みを環境マネジメントの重要な課題と位置づけています。地域社会などのさまざまな関係者ととも、生物多様性に配慮した事業活動の推進、及び商品やサービスの提供、生物多様性保全と生物多様性からの恵みの利用継続により、自然との共生社会・持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。

〈具体的な取り組み〉

1. 事業活動のすべてのステージにおいて、生物多様性へ与える影響に配慮し、すべての事業所から環境へ排出する有害な負荷を低減することにより、生物多様性保全に努めます。
2. 生物多様性保全に配慮した安全で使いやすい農業機械・農業施設を提供し、持続可能な農業への支援と河川などの自然環境保護への取り組みを支援することにより、生物多様性保全に努めます。
3. 自然の摂理と伝統に学ぶ技術開発を推進し、生物多様性保全に寄与する技術の開発・普及に努めます。
4. 生物多様性保全への取り組みをより実効あるものにするため、ステークホルダー及び地域社会など、さまざまな関係者とコミュニケーションを図り、生物多様性に関する認識を共有し、連携することに努めます。
5. 従業員に対し環境教育を実施し、社会全体で生物多様性保全を育む意識の向上に努めます。

○ 井関グループの環境リスクと企業リスク

事業活動による生物多様性への影響を把握し、リスクの低減や機会の創出に努めています。



○ 生物多様性保全に向けた取り組み

井関グループでは、国内4製造拠点の立地する地域の動植物への負荷低減や地域社会に配慮した事業活動を行っており、大気や水質の汚染など環境リスク低減のため、環境関連法規や条例基準値に対しより厳しい自主管理基準を定めています。

2019年度の実績は、全て自主管理基準値をクリアし環境汚染低減に向け推進しました。

測定項目	単位	井関松山製造所			井関熊本製造所			井関新潟製造所			井関重信製作所			
		規制基準値	自主管理	測定値	規制基準値	自主管理	測定値	規制基準値	自主管理	測定値	規制基準値	自主管理	測定値	
水質	浮遊物質 (SS)	600	500	26	200	40	2	90	45	3	200	120	4	
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	600	500	44	25	8	8	60	30	19	160	90	14	
	n-ヘキサン抽出物質 (動植物油類)	30	18	3	30	24	0.5未満	30	4	2	-	-	-	
大気	ばいじん	g/m ² N	0.30	0.18	0.01未満	0.30	0.08	0.01未満	0.30	0.20	0.01	0.35	0.18	0.01未満
	窒素酸化物 (NOx)	ppm	260	91	41	250	200	37	180	100	79	250	125	5
	ばいじん (鑄造電気溶解炉)	g/m ² N	0.10	0.08	0.01未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- : 該当なし、又は規制値対象外